



マイブーム
目指せ！素敵女子

先日当院で開催させて頂いた地域医療連携交流会は、皆様のおかげをもちまして大盛況に終わりました。

本会も今年で4回を迎えました。地域の現状を4人の先生に忌憚のないお話しをいただき、私も大変勉強になりました。ご講演いただいた、宮川先生、関口先生、飯田先生、木元先生、さらにご挨拶いただきました小嶋先生、乾杯のご挨拶をいただきました遠藤先生、本当にありがとうございました。

今後も南房総地域のことを本音で一緒に話し合える、そんな関係を築いていけるよう、努力致します。



地域医療連携室
室長 三河 貴裕

最近のマイブームは、某日帰り温泉の施設にある「岩床浴」へ通うことです。母と平日の休みを合わせ、月1、2回行くことが楽しみになっています。「岩床浴」は、暖かい岩床の上に一回約25分間寝転ぶと汗がだらだら出てきて、デトックスやダイエット効果をもたらします。これを3、4回繰り返します。私の場合、初めダイエット効果があまり実感出来なかったのですが、

午後2時以降は身体がお休みモードに入るため、午前中に入るのがおススメ、岩床浴のあとにジョギング等の運動をすると更に効果が上がる、という朗報を耳にし、実践してみたところ、翌日見事に1.5kgも体重が減りました！終わったら、温泉に入ってリラックスも出来るので、興味のある方は是非お試しください。

「素敵女子」目指して、これからも様々なことに積極的に取り組んでいきたいと思えます。

めると

TOPICS 開催予定の勉強会のご案内

1. 放射線治療講演会
「がん治療における放射線のパラダイムシフト」
日程: 11/26(火)18:00~19:30
2. 第3回マインドフルネス勉強会
「生まれたことの意味 - 周産期から老年期まで -」
日程: 12/8(日)9:00~16:00
3. 栄養管理講演会
「がん悪液質・サルコペニアとリハビリテーション栄養管理」
日程: 12/17(火)18:00~19:30

* 詳細はプログラムを参照ください。

第4回 地域医療連携交流会を10/15(火)に「地域で抱える現状と今後の展望」についてご講演頂きました。当日は、悪天候にも関わらず25施設127名お集まりいただきまして、懇親会には86名がご参加いただきました。ありがとうございました。
* 詳しくは、次号でご報告いたします。

医療・介護・保険・福祉・司法・教育等専門職 地域連携セミナーのご案内
日時: 12/8(日)13:30~18:30
会場: 亀田医療大学 学生会館
定員: 250名(無料)
* 詳しくは資料にてご確認ください。

「地域の中のエビハラグループ」 - 私たちが考える終末期医療とは -



医療法人社団宏和会 エビハラ病院
経営本部長兼看護部長
座間 直樹 氏

私どもエビハラグループは、エビハラ病院、ハートフル鴨川(有料老人ホーム)、嶺岡園(障害者支援施設)の医療・介護・福祉の三位一体による「unity of diversity」(多様性の統合)の基本理念のもと、地域での活動を行っております。

当院は、長期療養の患者さまを対象に「終末」を「週末」に換え、楽しく、そして少しでもその人がその人らしい人生が送れるよう日々スタッフは努力しています。看取りの病院という一般に患者が亡くなる病院というイメージをお持ちの方が多いようです。しかし当院では、その亡くなるまでの間、いかに充実した時間が過ごせるかを追求し、現在は「看取り看護」「あそびリテーション」をはじめ、接遇の強化、身体拘束の適正など様々な取り組みをしている段階です。管理者も指示型ではなく、スタッフからの提案型を重要視するよう心掛け、現場に即した患者主体のサービスが提供できるように体系化しています。

また地域の中の当グループの役割も意識していかなければならないと考えているところです。私どもは、利己的な考え方ではなく、地域の病院と連携し、少しでも治療の必要としている方々に対し、スムーズに医療提供が出来るためのシステム作りが必要であると感じています。

その為には、急性期を脱し、長期療養が必要な患者さまに対しては、円滑に入院できるような体制づくりの強化や各病院や施設の特徴を理解し、対象のレベルに合わせた病院・施設提供を行うなどの連携が必要と考えています。地域の医療従事者が各施設の特徴の理解や連携し合うことで、必要な時必要な医療が受けられる安心した地域に貢献できると考えています。

「QOLの維持・拡大に向けて」 脳神経外科病棟師長 土屋 和美

初めまして、亀田総合病院の脳神経外科病棟師長として2年目を向かえました。脳神経外科病棟の患者さまのほとんどが、身体機能障害や精神機能障害を伴っており、直接自宅への退院が可能な患者さまはおよそ半数ほどです。自宅退院であっても介護支援が必要な患者さまや、そして多くの患者さまはリハビリテーション病院や、長期療養型病院、または介護保健施設への転院を必要としており、地域医療と連携した退院支援が重要となっています。受け入れ先病院、施設での病床確保が難しいこともありますが、お互いの医師、MSWでの情報提供をしながら受け入れ病院、施設にスムーズな転院調整をして頂いています。脳神経外科病棟では急性期病院として有効な病床運用のためにも、入院早期より退院支援に関する介入を行っています。具体的な取り組みとしては、まずご家族・患者さまから入院に対する不安などの聴取を入院時に行い、必要なケースでは早期にMSWとの面談を調整します。さらに、週1回のカンファレンスでは、脳神経外科医師・リハビリスタッフ・MSW・看護師が参加し、医師は治療経過や退院の目安、リハビリスタッフはリハビリ加療の進行状況や現在のADL、MSWは経済的問題や介護者の問題、転院施設の受け入れ状況など、看護師は患者さま自身の思いや日々のご家族面会の様子から得た情報など、それぞれの情報共有や検討を行い、患者さまのQOLの維持・拡大に向けて取り組んでいます。そして転院患者さまには、継続した看護提供ができるような看護サマリー内容を意識して作成しています。これからも他職種スタッフと連携をとりながら、地域医療連携に取り組んでいきたいと思っています。これからもよろしくお願ひいたします。